

「がんばる農林漁業者」 第2号

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動 推進本部

平成26年9月5日発行

このニュースレターは「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の一環として発行しています。農林水産業の復興・再生に向けて先進的な取組をされている方々取材し、毎月紹介していきます。

家族とともに育む、 地域に根ざした農業経営！



郡山市
鈴木 清美さん
☆菌床なめこ、野菜☆

(有)鈴木農園は鈴木さんの父である清さんが昭和62年に設立しました。平成4年のなめこ栽培への転換をきっかけに生産規模を拡大し、以降、「たべごろなめこ」「ジャンボなめこ」等の食味を重視したブランドを確立しています。平成20年からは堆肥化したなめこ廃菌床を有効活用したえだまめやにんじんの特別栽培に取り組み、さらに平成24年には野菜の出荷期間拡大と収量増を目指して、パイプハウスを新たに導入した施設栽培を始めました。

鈴木さんは現在、郡山ブランド野菜である「紅御前」や「めんげいも」等の新たな野菜栽培にも挑戦しています。品目・品種の多様化を図る積極的な取組に加え、地域における自社商品の積極的なPRにも力を入れ、自社ブランドの地元定着とともに通年出荷体制の確立を図ることで、地域における通年雇用を目指しています。さらに、自社栽培の「御前人参」を使用した6次化商品（ドレッシング、ジュース、ジャム）を販売しています。

今後は、地域に根ざした商品となることで、「小さい頃から食べていた、あの野菜だ。」と思い出してもらえるような野菜を栽培したいそうです。そのために、特別栽培の野菜栽培はもとより、消費者との交流活動などにも取り組み、自社商品の浸透を図っていくほか、委託している6次化商品の自社生産化、さらには自社商品を飲食できる施設整備も視野に入れていきます。

水耕栽培による施設野菜生産 により地域の農業を牽引



中島村
稲田 喜男さん
☆野菜（水耕栽培）☆

稲田さんは元々家族で30a程度のトマト栽培をしていましたが、規模拡大には安定生産や省力化技術、労力の負担が課題だと感じていました。その頃、近隣でJAが行った水耕栽培のテスト栽培を見て、「これからの農業はこれだ。」と感じ、平成5年から水耕栽培を開始しました。

水耕栽培の開始にあたっては、近隣農家とともに「農事組合法人中島水耕生産組合」を設立しました。当初は季節により生産量の差が出たり、病害虫の発生などで生産量や品質をうまくコントロール出来ず苦勞しましたが、現在では計画通り生産できるようになっています。栽培にあたっては、農薬を出来る限り使用せず品質を確保する栽培体系を実践しているほか、放射性物質検査を定期的実施し、安全な農産物の生産を心がけています。また、近隣の水耕栽培を実施している農家と定期的に打ち合わせを開催したり、共同で研修を実施するなど関係を深めることを心がけ、優良な産地として向上するよう努めています。

このほか、農業に対する理解を深めてもらうため、近隣の学校と連携した農業体験学習への協力や、海外からの研修生の受入等も行っています。

今後は、引き続き品質の確保や安全な農産物の生産に努めるとともに、経営の安定化を図りながら後継者の育成に努め、持続的な経営に取り組むつもりとのことです。

会津伝統野菜を通じた 地域農業の絆づくり



会津若松市
長谷川 純一さん
☆水稲、野菜☆

長谷川さんは会津伝統野菜の栽培に取り組み、学校給食への提供を中心に行っています。周辺地域は非農家の生徒が大半であり、地域とのつながりや農業への関心を深めてもらいたいとの考えから、伝統野菜の栽培や農業に関する取組について、小・中学校において7年前から出前講座を行っています。

会津農書を語り継ぐ会の会長でもある長谷川さんは、「会津農書の頃から伝わる伝統野菜をなくしてはいけない」という思いを以前から強く持っていました。そのような時に福島県農業総合センターから種子を提供してもらい栽培に取り組んだのがきっかけで、仲間を増やしながらか栽培に取り組んでいます。

伝統野菜の特徴を生かした生産によって会津の伝統野菜をつないでいくことが重要だと考えているのですが、伝統野菜の生産はまだまだ少ないため、仲間づくりを進めて生産拡大し組織体制を構築していきたいと考えており、現在は浜通り、中通り、会津の仲間とのネットワークづくりを進めています。将来的には全国にまで広げていきたいとのことです。

また、会津農林高校で会津伝統野菜の栽培や採種を行っており、定期的に栽培指導をしています。

このほか、スペイン大使館とのつながりがきっかけで、会津小菊南瓜を通じたスペインとの交流も始まっています。今後は、南瓜を通じた食、文化、伝統工芸品などの交流を進めていきたいそうです。

震災直後から放射性物質の自主検査 6次化商品の開発・販売



いわき市
(有)とまとランドいわき
☆トマト（施設栽培）ほか☆

(有)とまとランドいわきは、養液栽培システムを使ったオランダ式温室でトマトを生産しています。

東日本大震災が発生した平成23年3月末から、大阪にある民間の検査会社に委託して農作物の放射性物質の自主検査を実施しています。検査の結果はホームページにも掲載して透明化を図っています。

また、生産しているトマトやイチジクを使ったジュースやジャムをはじめ、計9品目の6次化商品を製造委託し、直売所等で販売しています。生産当初は、形が崩れて売り物にならないトマトをジュースにして直売所で無料配布していたそうですが、口コミで人気が出てきたため、平成19年頃から販売を開始しました。その後、トマト以外についても次々と商品開発を進め、直売所で販売している商品だけでも9品目、他社に卸して商品にしているものも多数あるそうです。

今後は、取組のすべてを地区全体の農業の活性化と生産の底上げにつなげていきたいと考えており、ソーラーパネルの設置や体験農場、直売施設、レストラン、製造施設等を集約した一体型施設の建設・運営、生産施設の拡充などにより、生産を拡大したいと考えているそうです。これらは地域の農業者との協力が不可欠で、それによって消費者に農業をもっと身近に感じてもらうだけでなく、商品開発の場を提供することで地域の6次産業化を進め、地域の活性化や雇用の増加につなげていきたいとのことです。

ニュースレターの発行にあたり、取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

このニュースレターは、
ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動の
ホームページからも見ることができます。

アドレスはこちら ↓

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fff-syoku-furusato/>



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.